

巻 頭 言

北海道支部長 尾関俊浩（北海道教育大学札幌校）

令和 7 年 6 月より日本雪氷学会理事・北海道支部長を拝命しました。また支部理事も新旧交代があり、新しい体制となってスタートを切りました。北海道支部が今後ますます発展するよう支部理事一同精一杯努めてまいります。本支部は雪氷に関する研究活動の盛んな地域にあり、また雪氷災害調査チームや雪氷教育など社会貢献活動にも積極的に取り組んでおります。会員の皆様にはぜひ今後も活発な支部活動を支えていただきますよう、お願い申し上げます。さらに来年度、令和 8 年は北海道支部が全国大会の当番ですので、実行委員会と連携をとりつつ、良い大会が開催できるよう尽力して参ります。

北海道は日本海側の豪雪地帯から太平洋側の小雪地帯、海水が広がるオホーツク海沿岸と、多彩な雪氷環境が魅力的な地域ですが、地球温暖化が進む昨今は雪氷を取り巻く環境が年々変化しています。幸い日本の一番北にあって寒冷な地域なため、雪／雨の境となる本州の他地域程には極端な積雪の減少は見られていないものの、大雪災害に見舞われたり、流氷の勢力が弱まったりと、冬期ごとに気象・海象が異なるのを実感します。雪氷研究に携わる我々ができること、やるべきことが尽きることはありません。皆様のご活躍をぜひ支部にご報告ください。

さて、この度「北海道の雪氷」第 44 号を刊行する運びとなりました。本誌には 5 月 23 日～24 日に開催の研究発表会で発表された内容を元にした論文 27 編を収録いたしました。北海道支部総会と同日に開かれる研究発表会は、支部にとって年に一度、会員が一堂に会して行われる研究発表の場であり、会員交流の場でもあります。支部の基幹行事であるのはもちろんですが、若い研究者にとっては全国大会を前に発表の機会を提供する場になっております。今年は会場を札幌市内のかでる 2・7 研修室に変更し、55 名の参加者がありました。発表は雪氷物理、結晶のようなミクロな研究から、氷河・氷床や海水などメソスケールの研究、そして社会基盤に関わる研究と多岐に渡り、北海道支部らしい発表会となりました。発表およびご参加いただいた皆様、研究発表会の運営にご活躍いただいた担当理事、支部会誌の発行にご尽力いただいた担当理事の皆様には感謝申し上げます。

本誌収録の 2025 年度事業計画にありますように、北海道支部は今年度後半には雪崩の講演会、カーリングホールの氷メイキングに関する地域講演会の開催や、8 月 6 日札幌開催のサイエンスパークへの参加、紋別わくわく科学教室への後援など雪氷に関する多彩な行事を予定しております。今後とも北海道支部の取り組みへの皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。